

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	地理歴史:地理総合(必履修)	単位数 2 単位	履修年次 1 年次
目標	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組などを理解し、地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付ける。また、我が国の国土に対する愛情や、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。		
使用教材	教科書「帝国書院 高等学校 新地理総合」 教科書「帝国書院 標準高等地図」		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性、防災、地域や地球的課題への取組などを理解している。また、地図や地理情報システムなどを用いて、さまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、位置や分布、場所、人間と自然環境との関係性、空間的作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想し効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	知識・技能を獲得、思考力、判断力、表現力等を身に付けるために粘り強い取組みを行おうとしている。また、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚などが深まっている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度、課題などの提出状況、レポートやワークシートの内容、プレゼン発表内容などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や地理情報システムで捉える現代世界について、地球上の位置と時差や地図の役割と種類について学ぶ。</li> <li>・結び付きを深める現代社会について、現代世界の国家と領域、グローバル化する世界について学ぶとともに、これらの内容に着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察したり表現したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で見られる様々な地図の読図などにより、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。</li> <li>・地理情報システムを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめることのできる基礎的・基本的な技能を身に付ける。</li> <li>・現代世界の地域構成について、よりよい社会実現を視野に、そこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付ける。</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活文化の多様性と国際理解について、世界の地形・気候・言語や宗教・歴史的背景・産業と人々の生活について学習を進めるとともに、場所や人間と自然環境との相互依存関係に着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察したり表現したりする。</li> <li>・各地で見られる様々な地球的課題について学習を進めるとともに、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察したり、表現したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の人々の特色ある生活文化について、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり影響を与えたりすることで多様性をもつことや、地理的環境の変化によって生活文化が変容すること、さらには自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。</li> <li>・世界各地で見られる地球的課題における傾向性や課題相互の関連性について理解するとともに、その解決には持続可能な社会の実現を目指した取組や協力が必要であることを理解するとともに、実現に向けて自身にできる手立てを考えようとする態度を身に付ける。</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境と防災について、日本の自然環境を踏まえ、地震や津波・火山災害・気象災害と防災、自然災害への備えなどについて学習するとともに、これらの内容について、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。</li> <li>・生活圏の調査と地域の展望について学び、これらの内容について、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界全体で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害について、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わり、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。</li> <li>・地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関連性や、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりについて理解する。</li> <li>・生活圏を調査して地理的な課題を解決できるよう、必要な手法などを考える力を身に付ける。</li> </ul>	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>①プリント類については学習順にファイルにとじる。</li> <li>②ICTの利用も積極的におこない、行ったことのない国についても学ぶ科目である。</li> <li>③相互に意見を尊重し合いながら、ともに学び合う姿勢を持つ。</li> </ul>		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	地理歴史・歴史総合(必履修)	単位数 2 単位	履修年次 2 年次
目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野にたち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。		
使用教材	教科書「山川出版社 わたしたちの歴史」		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、現在とのつながりなどに着目して考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりするとともに、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	近現代の歴史に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度、課題などの提出状況、レポートやワークシートの内容、プレゼン発表内容などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	「歴史の扉」に関する諸事象を、自身の生活と結びつけて考え、自分たちの生活にどのようにつながっているのかを考察する。 「18世紀の世界とアジア」(アヘン戦争と日本/日本の開国/日本開国期の国際情勢/開国後の日本社会/明治維新/富国強兵と文明開化/日本の明治初期の外交/大日本帝国憲法の制定/日本の産業革命と日清戦争など)に関する諸事象を、地理的条件と関連づけたり様々な学問分野の領域から捉えたりしながら多面的・多角的に考察するとともに、現代の自分たちにつながる課題を追究したり解決したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な事柄が、時間的な推移や空間的な結びつきの中で歴史と結びつきをもっていることを理解する。</li> <li>資料にもとづいて歴史が叙述されていることを理解する。</li> <li>18世紀のアジア諸国における様々な事柄を考察・表現することで、18世紀のアジアの経済と社会について理解する。</li> <li>アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを考察・表現することで、工業化と世界市場の形成について理解する。</li> <li>政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを考察・表現することで、立憲制と国民国家の形成について理解する。</li> <li>帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを考察・表現することで、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容について理解する。</li> </ul>	
2	「国際秩序の変化や大衆と私たち」(第一次世界大戦と日本/ロシア革命とその影響/社会運動の広がり/国際協調/アジアの民族運動/大量生産・大量消費社会/世界恐慌/独裁勢力の台頭/日本のアジア侵出/第二次世界大戦と日本/第二次世界大戦の終結/戦後国際秩序/冷戦の始まり/日本の戦後革命と日本国憲法/日本の独立など)に関する諸事象を、地理的条件と関連づけたり様々な学問分野の領域から捉えたりしながら多面的・多角的に考察するとともに、現代の自分たちにつながる課題を追究したり解決したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一次世界大戦や、日本と国際協調体制の特徴などを考察・表現することで、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制について理解する。</li> <li>第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを考察・表現することで、大衆社会の形成と社会運動の広がりについて理解する。</li> <li>世界恐慌や国際協調体制に関連する事柄を考察・表現することで、国際社会の動揺について理解する。</li> <li>第二次世界大戦の惨禍や社会状況、日本への占領政策などを考察・表現することで、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰について理解する。</li> <li>現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史について理解する。</li> </ul>	
3	「グローバル化と私たち」(第三世界の登場/冷戦の固定化と「雪解け」/冷戦の展開/55年体制と安保闘争/高度経済成長の光と影/ベトナム戦争とアメリカ/経済構築の変化/日本の経済大国化/アジアの経済成長/社会主義の停滞と新自由主義/冷戦の終結/冷戦後の地域紛争など)に関する諸事象を、地理的条件と関連づけたり様々な学問分野の領域から捉えたりしながら多面的・多角的に考察するとともに、現代の自分たちにつながる課題を追究したり解決したりする。 「現代的な諸課題の形成と展望」では歴史的な見方や考え方をいかして現代的な諸課題を考察するとともに、現代的な諸課題に対して、歴史的な問いを立て、これまでの学習をもとに考察したり表現したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>第三世界の国々や欧米・ソヴィエト連邦に関する事柄を考察・表現することで、国際政治の変容について理解する。</li> <li>冷戦下の世界経済や地域連携の特徴などを考察・表現することで、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会について理解する。</li> <li>市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを考察・表現することで、市場経済の変容と課題について理解する。</li> <li>冷戦終結後の国際政治と日本の役割などを考察・表現することで、冷戦終結後の国際政治の変容と課題について理解する。</li> <li>歴史的な見方や考え方をいかして、現代的な諸課題を考察する方法を理解する。</li> </ul>	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>①プリント類については学習順にファイルにとじる。</li> <li>②単に暗記をするだけでなく、時代背景と事実の関連性について考える力が必要となる。</li> <li>③相互に意見を尊重し合いながら、ともに学び合う姿勢を持つ。</li> </ul>		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	地理歴史:地理総合(選択)	単位数 2 単位	履修年次 2・3 年次
目標	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組などを理解し、地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付ける。また、我が国の国土に対する愛情や、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする事の大切さについての自覚などを深める。		
使用教材	教科書「帝国書院 高等学校 新地理総合」 教科書「帝国書院 標準高等地図」		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性、防災、地域や地球的課題への取組みなどを理解している。また、地図や地理情報システムなどを用いて、様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、位置や分布、場所、人間と自然環境との関係性、空間的作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想し効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	知識・技能を獲得、思考力、判断力、表現力等を身に付けるために粘り強い取り組みを行おうとしている。また、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚が深まっている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、日々の授業態度、課題などの提出状況、レポートやワークシートの内容、プレゼン発表内容などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	各地域(オセアニア、東南アジア、中央アジア・西アジア・北アフリカ、インド、ラテンアメリカ、サハラ以南アフリカ、ロシア、アメリカ合衆国、東アジア、ヨーロッパ)についての文化や産業、生活などについて学ぶとともに、これらの内容に着目して主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察したり表現したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の生活文化の内容や、経済成長の影響を受けての変化について理解する。</li> <li>・その地域の気候から生まれた生活文化や産業、人々の暮らしに影響する宗教などについて、自分の暮らしと比較しながら理解する。</li> <li>・植民地支配や移民の歴史と人々の生活文化・産業がどのように関わり形成されてきたのかを理解する。</li> </ul>	
2	自然環境と防災(日本の自然環境、地震・津波と防災、火山災害と防災、気象災害と防災、自然災害への備え)について学ぶとともに、これらの内容に着目して主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察したり表現したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国をはじめ世界でみられる自然災害や生徒の生活圏でみられる自然災害を基に、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。</li> <li>・様々な自然災害に対応したハザードマップの新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。</li> <li>・地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応など考察し、よりよい社会の実現に向けて主体的に課題を解決しようとする態度を養う。</li> </ul>	
3	SDGsに関わる地球規模の課題(海洋汚染や水の利用、教育の普及、食料生産、感染症予防、自然災害)について学ぶとともに、これらの内容に着目して主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察したり表現したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界に存在する地球的課題の背景にある要因や、その課題の解決に向けて自分達にできることを探究したり理解したりする。</li> <li>・世界各地でみられる諸問題を基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。</li> <li>・これまでの学習内容を生かして、減災の取組によって自然災害に強い地域を目指す方法を探り表現する。</li> </ul>	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>①プリント類については学習順にファイルにとじる。</li> <li>②自分の住む地域と学習内容を、結びつける意識を持つ。</li> <li>③相互に意見を尊重し合いながら、ともに学び合う姿勢を持つ。</li> </ul>		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	地理歴史:世界史探究(選択)	単位数 4 単位	履修年次 3 年次
目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野にたち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。		
使用教材	教科書「山川出版社 世界史探究 高校世界史」		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代社会とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決に向けて構想、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究する態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国やその文化を尊重することの大切さについての自覚を深めている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度、課題などの提出状況、レポートやワークシートの内容、プレゼン発表内容などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	・諸地域の歴史的特質の形成(文明の成立と古代文明の特質、中央ユーラシアと東アジア世界、南アジア世界と東南アジア世界の展開、西アジアと地中海周辺の世界形成、イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成)について、地理的条件と関連づけたり様々な学問分野の領域から捉えたりしながら多面的・多角的に考察するとともに、現代の自分たちにつながる課題を追究したり解決したりする。	・神権政治に基づく専制的な政治が、人々の生活を安定させ、豊かにするものであったかや、皇帝や貴族による律令国家の形成により、人々の生活はどのように変化していったかを理解する。 ・仏教やヒンドゥー教の定着による国家の変容と、文化・思想の変化を探究し表現する。 ・イラン人やローマ人が形成した帝国による政治制度の変容や、キリスト教やイスラーム教が広がった背景や、各地域の政治、文化の変容や現代のつながりについて理解する。	
2	・諸地域の交流(イスラーム教の伝播と西アジアの動向、東アジア世界の展開とモンゴル帝国、大交易・大交流の時代など)について、地理的条件と関連づけながら多面的・多角的に考察するとともに、現代の自分たちにつながる課題を追究したり解決したりする。 ・諸地域の結合・変容(産業革命と環大西洋革命、イギリスの優位と欧米国民国家の形成、帝国主義とアジアの民族運動、第一次世界大戦・第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成など)について、地理的条件と関連づけながら多面的・多角的に考察するとともに、現代の自分たちにつながる課題を追究したり解決したりする。	・イスラーム勢力の拡大とヨーロッパ世界の変容や、モンゴル帝国によりユーラシア統合によって「世界の一体化」の一端が形成されたことを理解する。 ・ポルトガルやスペインが海外進出した理由と他国との関係性を理解する。 ・産業革命を可能にしたイギリスの国内・国際的条件について考察し理解する。 ・国際関係を安定させようとするウィーン体制の影響や、第2次産業革命の進展と列強の帝国主義政策との関係性について理解する。 ・第一次世界大戦や第二次世界大戦を引き起こした要因やその影響、第二次世界大戦後の新しい国際秩序の形成について理解する。	
3	・冷戦と第三世界の台頭や冷戦の終結と今日の世界について、地理的条件と関連づけながら多面的・多角的に考察するとともに、現代の自分たちにつながる課題を追究したり解決したりする。	・冷戦時代の西側と東側社会の共通点や相違点、冷戦体制が動揺した背景について理解する。 ・第三世界の特色を考察し、台頭したアジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国の共通点と相違点について理解する。 ・米ソ両国がどのように「新冷戦」を乗り越え、和平を実現したか、経緯を理解する。	
学習上の留意点	①プリント類については学習順にファイルにとじる。 ②単に暗記をするだけでなく、時代背景と事実の関連性について考える力が必要となる。 ③相互に意見を尊重し合いながら、ともに学び合う姿勢を持つ。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	地理歴史:日本史探究(選択)		単位数 4 単位	履修年次 3 年次
目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野にたち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。			
使用教材	教科書「山川出版社 日本史探究 高校日本史」			
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)	
	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想、考察、構想したことを効果的に説明したり、それを基に議論したりしている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国やその文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。	
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度、課題などの提出状況、レポートやワークシートの内容、プレゼン発表内容などを含め、総合的に評価する。			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	<p>・原始・古代(日本文化のあけぼの、古墳とヤマト政権、律令国家の形成、貴族政治の展開)について、地理的条件と関連づけたり様々な学問分野の領域から捉えたりしながら多面的・多角的に考察するとともに、現代の自分たちにつながる課題を追究したり解決したりする。</p> <p>中世(院政と武士の進出、武家政権の進出、武家政権の成立、武家社会の成長)について、地理的条件と関連づけたり様々な学問分野の領域から捉えたりしながら多面的・多角的に考察するとともに、現代の自分たちにつながる課題を追究したり解決したりする。</p>		<p>・古代社会の東アジアとの交流は、ヤマト政権や律令国家への展開に向けてどのように変化していったか、仮説を表現する。</p> <p>・各時代の文化について、他国との交流による影響や仏教など宗教との関係性に着目し考察する。</p> <p>・棟梁を中心とした大武士団の成立過程や、武士が次第に政治的な力を持つようになったことについて考察する。</p> <p>・古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。</p> <p>・将軍と御家人との主従関係、公武的二元支配構造などについて理解する。</p>	
2	<p>近世(近世の幕開け、幕藩体制の成立と展開、幕藩体制の動揺)について、地理的条件と関連づけたり様々な学問分野の領域から捉えたりしながら多面的・多角的に考察するとともに、現代の自分たちにつながる課題を追究したり解決したりする。</p> <p>・近代と現代(近世から近代へ、近代国家の成立、近代国家の展開と国際関係、近代の産業と生活)について、地理的条件と関連づけたり様々な学問分野の領域から捉えたりしながら多面的・多角的に考察するとともに、現代の自分たちにつながる課題を追究したり解決したりする。</p>		<p>・大航海時代と、銀の交易や鉄砲やキリスト教の伝来を関連づけて考察し、中世から近世への時代の転換を理解する。</p> <p>・幕藩体制は法や制度の整備の下で確立し、展開していったことについて理解し、幕府の財政悪化によって実施された三大改革や田沼意次の諸政策とその影響を考察する。</p> <p>・「鎖国」体制維持のための諸政策や、開国後の貿易の実態とその影響による経済の混乱について考察する。</p> <p>・対外政策の変容、不平等条約の締結、憲法の成立、条約改正交渉の過程、2つの対外戦争とその影響、労働運動などの諸課題について理解する。</p>	
3	<p>・近代と現代(恐慌と第二次世界大戦、現代の世界と日本)について、地理的条件と関連づけたり様々な学問分野の領域から捉えたりしながら多面的・多角的に考察するとともに、現代の自分たちにつながる課題を追究したり解決したりする。</p>		<p>・第一次世界大戦後の長引く不況から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・外の経済状況と対策に着目して理解する。</p> <p>・恐慌から脱出し、五・一五事件から二・二六事件にかけての軍部の影響力の増大や、太平洋戦争に至る過程や戦争の長期化の要因である、国家体制が進展していく経緯を考察する。</p> <p>・連合軍の日本占領の目的が非軍事化と民主化であったことを理解し、諸政策による日本社会への影響を考察する。</p> <p>・冷戦による国際政治の枠組の変化を理解する。</p>	
学習上の留意点	<p>①プリント類については学習順にファイルにとじる。</p> <p>②単に暗記をするだけでなく、時代背景と事実の関連性について考える力が必要となる。</p> <p>③相互に意見を尊重し合いながら、ともに学び合う姿勢を持つ。</p>			

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	地理歴史:地理探究(選択)	単位数 4 単位	履修年次 3 年次
目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野をもち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。		
使用教材	教科書「二宮書店 地理探究」 教科書「帝国書院 標準高等地図」		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを説明したりしている。	地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重する大切さについての自覚などを深めている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストの他、日々の授業態度、課題などの提出状況、レポートやワークシートの内容、プレゼン発表内容などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	地形や気候と生態系、世界各地の自然と生活、日本の自然環境と防災、地球環境問題、資源・エネルギー、第3次産業、交通・通信、貿易・観光などについて学ぶとともに、これらの内容に着目して主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察したり表現したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地形に関わる諸事象や、大気循環のしくみなどに着目して主題を設定し、多面的・多角的に考察する。</li> <li>・気候の特徴と人々の暮らしとの関係性や、自然環境と自然災害の関係などについて表現する。</li> <li>・農林水産業や資源・エネルギー、工業、第3次産業などに関わる諸事象の規則性や諸課題の現状や要因、解決に向けた取組について理解する。</li> <li>・交通・通信、貿易・観光について、交通・通信手段の発達や貿易構造などに着目して、表現する。</li> </ul>	
2	人口や部落・都市、生活文化と言語・宗教、国家とその領域、現代世界の地域(中国・朝鮮半島・東南アジア・中央アジア・北アフリカ・ヨーロッパ・ロシア・アングロアメリカ・ラテンアメリカなど)について学ぶとともに、これらの内容に着目して主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察したり表現したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口や村落・都市、生活文化と言語・宗教、国家とその領域に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や様々な問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。</li> <li>・地域について理解し、現代世界が自然、文化などの指標によって様々な区分できることを理解し、それぞれの区分からわかる地域の特徴を考察する。</li> <li>・各国の自然や文化、歴史的背景、民族、自然、農業、工業などの項目を整理しながら、基本的な知識を身に付け、日本をはじめ世界各国に与える影響について探究する。</li> </ul>	
3	現代世界の地域(オーストラリア・ニュージーランドと島嶼国など)や現代日本に求められる国土像について学ぶとともに、これらの内容に着目して主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察したり表現したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストラリアやニュージーランドなどについて、自然、農業、歴史的背景、民族・文化などの項目を整理しながら基本的な知識を身に付け、それらを結びつけて地域的特色を理解する。</li> <li>・自然災害に強い国土や多文化共生社会の実現などに関して、日本が抱える地理的・社会的な課題を発見し、その課題を多面的・多角的に探究する。</li> </ul>	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>①プリント類については学習順にファイルにとじる。</li> <li>②ICTの利用も積極的におこない、行ったことのない国についても学ぶ科目である。</li> <li>③相互に意見を尊重し合いながら、ともに学び合う姿勢を持つ。</li> </ul>		